## 年間第5週日曜日・ B年35.真理を広め る

年間第5週日曜日・B年

## 35. 真理を広める

- あらゆる環境に主のみ教えを伝える責任を果たすことが急務である。
- 一 使徒職と使徒獲得の源泉は、真理を有し、唯一の真の救霊に与っていることの確信。この確信を失うと信仰を広める意味も無くなる。
- 一 伝えられた教義への忠実さ。

35. 1 キリストの教義をあらゆる 環境に緊急にもたらすこととその責 任

イエスは朝早く起きて、祈るために 人里離れた所に出て行かれました。 弟子たちはイエスを見つけると「み んなが捜しています」と言った。す るとイエスは言われた。「近くの他 の町や村へ行こう。そこでも、わた しは宣教する。そのためにわたしは 出て来たのである」<sup>[1]</sup>。

キリストの使命は福音を広め、使徒 たち[2]とあらゆる時代のキリスト者 をとおして良い知らせを地の果てま で伝えることです。これは教会の使 命で、主の命令をこのように果たし ます。「世界中に出かけて行って、 創られたすべてのものに福音を宣べ 伝えよ」い。使徒言行録には初代福 音盲教の多くが詳細にわたって書か れています。聖霊降臨の日に、聖ペ トロはイエス・キリストの神性、贖 いの死、栄光の復活についての説教 をしています<sup>[4]</sup>。 聖パウロはイザヤ の預言を引用して声高に叫びます。 「良い知らせを伝える者の足は、な んと美しいことか!| <sup>[5]</sup> ミサの第 2 朗読は、救いの真理を知らせる喜ば しい責任について教えてくれます。 「もっとも、わたしが福音を告げ知 らせても、それはわたしの誇りには なりません。そうせずにはいられな

いことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです」<sup>[6]</sup>。

聖ペトロの言葉を使い、教会はキリストの教義をあらゆる所に広めるために、あらゆる機会を利用するように、神が彼らを召されたことを信者たちに思い出させています[7]。

聖ヨハネ・クリゾストモは、この非 常に喜ばしい義務を果たさない為の あらゆる言いわけを可能な限り予想 しました。彼はこう記しています。 「他の人の救いに関心のないキリス ト者より冷淡な者はない。私は彼ら を救うことができないと言ってはな らない。あなたが本当にキリスト者 なら、このように容認することはで きません。自然の事物の特性を否定 することはできません。同じことが いま言ったことにも当てはまりま す。キリスト者がこのように行うこ とは自然だからです。キリスト者が

私たちが生活し仕事をしている環境 の中で、本当に信仰の伝達者繁にに信仰の伝き頻れている大きがもったがもったがもったがあるとりですがあるようにではいるが要を付けるができまれているができまりができまりができまりができまりができまりができまりができまりです。 私たちが生活し仕事をして連れているがものがもったがもったがもったです。 なぜならいるがいるがいるがいるがいるがいるができまりがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるがいるできまりです。 「そうせずにはいられないからです。福音を告げ知らせないなら私は 不幸なのです!|

35.2 真理。救いをもたらす真理 を持っているという確信から生まれ る使徒職と召し出しの獲得

私たちが実践し、人々を神への信 仰、さらに優れた神への献身へと引 きつける使徒職とメンバー(使徒) 獲得は、私たちが信仰と愛を持って いるという確信から生じます。私た ちは救いをもたらす真理と、不安な 心を和らげて必ず満足させてくれる 唯一の愛を持っています。この確信 が失われる時、信仰を広めることの 重要性はわからなくなります。そう なれば、キリスト教的環境の中にい ても、人々に影響を及ぼすことがで きるかどうか疑い始めるかも知れま せん。未信者の人たちが、神の意志 に一致して生じる掟、正義の掟を支 持することはないと失望するかも知 れません。また、信仰が届いていな い地域や信仰がまだしっかりと根づ いていない他の十地にキリストの教 えを伝えることの意味も見失ってし まうでしょう。とにかく、私たちが 提供することのできる最も価値ある 宝 - イエス・キリストへの信仰と 恩恵による命 - を忘れては、使徒 的使命はただその国の物質的発展に 好都合な単に社会的な活動だけにな ります。私たちは信仰が弱くなって しまったキリスト信者になり、多 分、真理はただ一つだということを 忘れてしまうでしょう。真理が人々 と民族をさらに人間らしくし、天国 への道を開くことを思い出すことも ないことでしょう。

私たちは信仰に導かれて社会的な仕事を企てるべきです。しかし、「世の中は単に社会の改革者だけでは満足しません。世の中は聖人を必要としています。聖性はわずかな人の特権ではなく、すべての人に授けられ

た贈物です。これを疑うなら、キリストの意向を十分に理解していないことになります」 \_\_。 キリストのメッセージの本質的な部分を無視することになるのです。

信仰は真理であり、理性に光を与 え、過失から守ります。それは原罪 の傷を癒し、最初の悲劇的破壊に よって生じた道を踏み外す傾きを和 らげます。信仰についてだけでな く、信仰に関係するものすべてに言 及するもの - 世界の起源や生命、 人間の疑いようのない尊厳、家族の 重要性など - においてキリスト者 の確信はこの信仰から生じるので す。信仰は人の道を照らす光です。 信仰は、パウロ六世が教えてくだ さっていますが、自分の知識にでは なく、神の言葉に基づく教義的な態 度を確実に持つようにしてくれま す。しかしこのように教義的な態度 があっても傲慢に陥ることはありま せん。私たちは幸運であり、私たち

だけが真理を持っていますが、それは私たちを強くし、真理を守るための勇気を与えてくれるのです。それは真理を広めることを愛するようにしてくれます。聖アウグスチヌスは次の事を思い出させてくれます。うぬぼれることなく、真理を誇る[10]。

真の信仰を受けたということは素晴 らしい贈物です。しかし、同時に大 きな責任が生まれます。自分が受け た宝に気づいているキリスト者の使 徒的熱意は狂信的な行為ではありま せん。それは真理に対する愛です。 生きた信仰の表れです。言行一致の 現れなのです。信者獲得という言葉 の崇高で真実の意味は、何としても 虚偽や暴力によって人を引きつける という意味ではなく、すべての人に 対する神の呼びかけに応じてキリス トを人々に伝えようとする使徒の努 力です。神が表される豊かさを霊魂 が認め、その霊魂が救われるのを望 むことです。もし神のみ旨ならば、

彼らが神への完全な奉献という召命を受け入れるように望むことです。 このメンバー獲得は神が私たちに託 された最も高貴な仕事の一つです。

35. 3 告げ知らせるべき教えへの 忠実

信仰を広めようとする私たちの努力 によって、すべての人を尊敬し、考 慮しながらも、真理全体と本物のキ リスト信者の生活が要求すること が、一般的に広く流行している考え 方や非常に多くの人々の怠慢な態度 と衝突するかも知れないと恐れるが ゆえに、中途半端な信仰を伝えるこ とはできません。真理がかかわると ころにはその場しのぎの手段はな く、犠牲を払うことを覚悟している 愛は、不十分なことに甘んじたり、 妥協したりすることを許しません。 たとえ、場合によっては条件を果た すのが難しく、英雄的、少なくとも 剛毅に満ちた行動さえとらなくては

ならない事があるとしても、使徒職 の条件は教義に忠実であることで す。大家族を持つこと、社会的公正 を要求されること、神が誰かをお呼 びになるとき神に対して完全に奉献 するということになれば、寛大さ等 のテーマを省くことはできません。 ありきたりの知恵で満足するため に、福音が伝えていることを希薄に して人々を喜ばすことを私たちは望 みません。聖パウロはテサロニケの 人々に「私たちは人を喜ばせないで 神を喜ばせるように話す | [11]と手紙 を書きました。福音の教えを簡単に させようと主張したり、信じるべき 神秘と私たちの生きる基準となる行 いの規範について沈黙したりするこ と(または手加減すること)は、キ リストの命令にきちんと従うやり方 ではありません。キリストより優れ た真実性、行動力、魅力で福音を説 いた人は誰もいなかったし、今後も いないでしょう。また、当時でさえ

キリストに忠実に従わない人がいま した。

「わたしたちは、十字架につけられ たキリストを宣べ伝えています。す なわち、ユダヤ人にはつまずかせる もの、異邦人には愚かなものです が、ユダヤ人であろうがギリシア人 であろうが、召された者には、神の 力、神の知恵であるキリストを宣べ 伝えているのです」<sup>[12]</sup>。 にもかかわ らず、キリストがすべての人に受け 入れやすくされた福音をとおして教 えられたように、キリストのところ に連れて行きたいと思う人の理解力 と状況に合わせる努力をしなければ なりません。

キリストに忠実であれば、私たちが 受けたものを忠実に効果的に告げ知 らせるようになります。今日、ヨー ロッパと全世界への宣教を始めた頃 の初代キリスト信者の時代のよう に、私たちは友だちや知り合い、同 僚に、神のあわれみの福音と日々の 住事の中でキリストのすぐ傍にん。 喜びを告げなければなりません。 の知らせは同時に私たちの生活を の知らせは同時に私たちの もか棄し、物質的ない ら離脱し、純潔であり、謙遜れた いるしを求め、神が永遠からる をれぞれにお望みになってす。 に一致する必要があるのです。

緊急感に駆られて、現れるどんな機 会も無駄にしないようになります。 そればかりか、色々な状況で私たち 自身が機会を作らなければ、良い機 会など決して訪れないでしょう。皆 があなたを探し求めています。 世界は神を渇望し、神に対する渇き を覚えているのです。愛や希望を渇 望しているのと同じように。私たち の友人、知人、いや最も私たちから 遠い存在である人たちも神を望み、 必要としているのです。大抵は、彼 らはそんな素振りを見せませんが。 そして、それ以上に大切なことは、 神が彼らを探し求めているというこ とです。

使徒たち、そして初代のキリスト者 たちと同じ使徒職と、使徒の獲得に 対する心遣いをくださいますよう に、聖母にお願いしましょう。

<sup>[1]</sup> マルコ 1・29-39

<sup>[2]</sup> マルコ 3・14

- [3] マタイ 18・19-20参照
- [4] ヘブライ 2・38参照
- <sup>[5]</sup> ローマ 10・15、イザヤ 52・7
- [6] ーコリント 9・16
- [7] 第二バチカン公会議 信徒使徒職に 関する教令 6番
- <sup>[8]</sup> 聖ヨハネ・クリゾクトモ 使徒言行 録による説教 20番
- <sup>[9]</sup> 聖ヨハネ・パウロ二世 演説 1987 年9月12日
- <sup>[10]</sup> 聖パウロ六世 演説 1965年8月4日
- <sup>[11]</sup> ーテサロニケ 2・3-4
- [12] ーコリント 1・23-24
- [13] ニコリント 2・5 14

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-V-nichi-B/ (2025/11/21)